

## 夏の大会閉会のことば

本当にお疲れ様でした。バスケットボール部長の湯澤です。優勝した男子 神守中学校、女子 藤浪中学校おめでとうございます。そして、準優勝の男子 藤浪中学校、女子 八開中学校よく頑張りました。また、3位になったチームも海部地区ベスト4となったのですから、胸を張ってください。

さて、3日間の大会を見させてもらって、印象に残ったことをお話しさせていただきます。今でも目の前に浮かぶ光景があります。男子の1回戦です。実力の差があり、前半のうちに何十点もの差がついていました。でも、あきらめないチームでした。お互いに声をかけ合い、監督も大声で鼓舞していました。後半になっても劣勢は続きます。しかし、ベンチとプレイヤーは生き生きと、その試合を戦っていました。時おりナイスプレイもありました。

私はこう考えました。勝負だから勝ち負けは当然ある。そのために戦うともいえる。しかし、それを超越した時、同じ中学3年生として堂々と意識の上では「対等に戦えるのだ」と。そして、タイムアップの瞬間大粒の涙を流し挨拶をし会場を後にしました。

海部地区だけでなく、全国各地で同じ光景が繰り広げられています。そして、全国大会の決勝戦まで続きます。一度も負けないチームのみが「優勝」するのです。どうか、今日勝ち残った男子4チーム女子4チームの皆さんは、是非負けて会場を後にしたチームの思いを受け止めてください。一日でも長く、チームメイトとしてバスケットボールを続けたかったであろう同級生の思いを。

最後になりますが、本大会のために準備をいただいた弥富市十四山スポーツセンター並びに飛島村の関係者のみなさま、十四山中学校と飛島中学校の先生方と生徒諸君には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さらに、今日までチームを育てていただいた顧問の先生方、素晴らしい選手を育てていただいたお家の方々に感謝申し上げます。

また、本大会を支えていただいた大会役員の先生方審判員の皆様本当にご心労をおかけいたしました。

以上で私からの高評とさせていただきます。